

『数学習熟教材』の特長と使い方

■『数学習熟教材』とは■

- ・自分の学習にピッタリあったプリントがとりだせ、ステップをふんだ学習展開になっているので、驚くほど効果的な学習をすすめることができます。
- ・各学年とも年間 180 前後の学習単位です。学校の授業の進度にあわせて、必要に応じて予習・復習・先取り学習などを行うことができます。
- ・「説明・解き方」「問題」の一連のステップをふんだ習熟学習を、1 単元で 1～2 枚のプリントにむだなく効率的にくみこんだ画期的な学習展開になっています。
⇒図形の証明問題では、証明の書き方がとらえられるように、穴埋めから練習をし、最後は全体を証明できる構成となっています。
- ・1 単元の学習量をコンパクトにまとめることで、集中力を持続したまま 1 つ 1 つの学習内容を習得できるようになります。
- ・数学の内容がわかりやすく、ステップをふんで学習ができます。まず基本的な考え方をきちんと理解したあと、問題練習でさらに定着をはかっていきます。そして試験前には「チェックテスト」で実力を確認できます。

【基本構成と特長】

通常の学習は「学習」と「練習」から構成されます。各章の最後の「チェックテスト」で、学習到達度の確認ができます。

学校の学習段階に適切に対応している教材なので、自分にピッタリあった効率のよい学習をすることができます。

学 習

…学習内容をわかりやすく項目別に分け、学習しやすい構成にしています。
基本的な考え方を理解し、代表的な問題の解き方を習得できます。

練 習

…学習内容をもう一度ふり返り、定着をはかります。ここで問題がとけないときは、「学習」にもどって復習するのが効果的です。

チェックテスト

…学習到達度が確認できるように、範囲を変えて各章に 3 回分ずつ用意しています。定期試験の直前の模擬テストとしても利用できます。

※学習内容のよりわかりやすい解説として「補充学習」が、さらなる練習があるとよい項目には、「補充練習」がもうけてあります。

【使い方】

教科書のページ範囲で選択して、授業の進度にあわせた学習ができます。

表示された教科書のページを参考にして、学習したい項目を選択し、印刷してください。

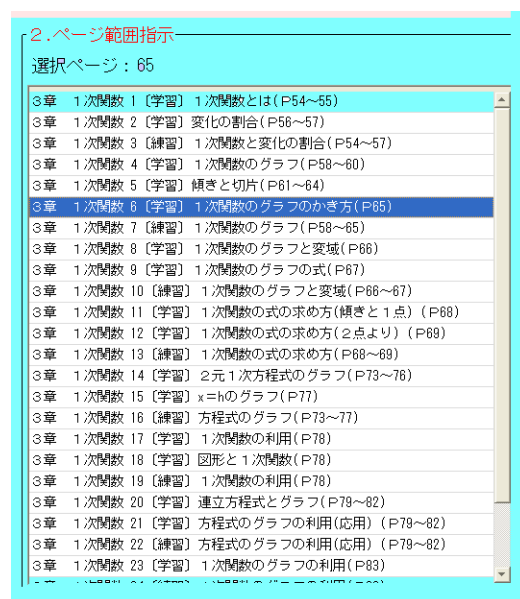
通常は、「学習」または「練習」が用意されており、それぞれ20分程度で学習できます。

広い範囲を指定したいときは、最初の項目を選んだあと、〔Shift〕キーを押しながら最後を選択するか、左クリックで必要な内容をなぞってください。

飛び飛びに選択したいときは、2番目以降の項目は〔Ctrl〕キーを押しながら選択してください。

学習要素を選択できます。

学習要素を「学習」「補充学習」「練習」「補充練習」「チェックテスト」の5つに分けてありますから、必要な範囲を光らせたあとに、『問題種別』ボタンを押して取り出すことができます。〔練習〕を選択すれば、その範囲の〔練習〕のみを取り出すことができます。



1枚単位ごとの印刷もできます。

1ページだけ再度学習したいときは、『問題表示』させ、Adobe Readerの機能を使って、必要なページのみ印刷することもできます。

【具体的な活用例】

通常学習

- ・学校で習ったところを忘れないうちに、対応する部分の「学習」で復習し、そのあと「練習」で実戦力をつけましょう。順に学習すれば力がつくようになっていきますから、章ごとに1冊のテキストにすることを勧めます。また、「補充学習」「補充練習」は宿題としても役に立ちます。

復習学習

- ・夏休み、冬休みなどに、それまでに習った内容を復習したいときは、まず「練習」にチャレンジして、忘れていているところや苦手なところを確認して、「学習」でそのところをおさらいをしましょう。

先取り学習

- ・先取り学習をしたいときは、「学習」だけをどんどん先までチャレンジして、学校の進度にあわせて「練習」にチャレンジすると、2度の学習で効果を高めることができます。

実戦対策

- ・定期試験の前や入試対策のときには、まず「チェックテスト」で学習し、できなかったところを「学習」でおさらいします。これを3回の「チェックテスト」を使ってくりかえせば、十分な学習効果が得られます。

定期試験・数学の構成と使い方

定期試験の数学は、定期試験で高得点をとるためのシステムです。定期試験の範囲に合わせて、教科書の内容をとらえるための問題、定期試験の予想問題、入試問題などにトライしてみる応用問題を取り出すことができ、自分の理解度に応じた学習メニューを設定できます。

【とり出せる問題の種類】

1 基本 1

基本問題で基本的な考え方の理解ができているかどうかをチェックします。解き方のポイントを参考にしながら、確実にできるようになるまで何度も練習するようにしましょう。ここできちんと基礎力をつけておくことで、次のステップの学習がスムーズになります。

⇒数学が苦手な人は、特に基本1の問題をきちんとできるようにすることが大切です。

解き方を暗記するくらい、何度も解いて手に覚えさせましょう。

⇒以前学習した内容の範囲の基本1の問題にチャレンジすることで、どこでつまづいているかチェックすることもできます。自分の弱点の克服に利用できます。



2 標準 1 ・ 標準 2 ・ 標準 3

3回分の予想問題を用意してあります。

基礎力がある人や時間がない人は、ここから始めても OK です。

⇒定期試験によく出される問題を分析し、体系的に整理した問題を示してあります。一般的によく出される形の問題であると同時に、多くの問題の解き方の基礎になるような問題を配列してあります。

3 応用

おもに入試問題などからなる応用問題です。

⇒レベルの高い学習をする学校に行っている人や、実力のある人の力試しとして活用ください。

⇒先生によっては、入試問題を改題して定期試験問題にすることがありますので、そのような先生の定期試験対策としても有効です。

4 WPT (Weak Point Training)

標準 1 ・ 標準 2 ・ 標準 3 の問題の 1 問 1 問に対して、弱点補強のためのウィークポイントトレーニングが設定してあります。

⇒標準 1 からの学習に対して、1 問 1 問について、弱点補強のための説明・問題を取り出せるようにしてあります。

標準 1 から学習を始めるときにとくに有効利用できます。

●WeakPoint抽出	
	WeakPoint
2301	1次関数とは
2302	変化の割合
2303	1次関数のグラフ
2304	傾きと切片
2305	1次関数のグラフのかき方
2306	1次関数のグラフと変域
2307	1次関数のグラフの式
2308	1次関数の式の求め方
2309	1次関数の式の求め方
2310	2元1次方程式のグラフ
2311	$x=h$ のグラフ
2312	1次関数の利用
2313	図形と1次関数
2314	連立方程式とグラフ
2315	方程式のグラフの利用(応用)
2316	1次関数のグラフの利用

【問題種別】

指定した問題種別（パターン）だけの問題を印刷することができます。

⇒「計算問題」「文章題」「グラフと関数」「図形の性質」「図形の証明」「図形の計量」「規則性・確率」といった問題の分類・抽出ができます。

●問題種別抽出
計算問題
文章題
グラフと関数
図形の性質
図形の証明
図形の計量
規則性・確率

【レベル結合機能】

指定した範囲での、やさしい問題から難しい問題まで、いっしょに学習したいときは、レベル結合機能をご利用ください。

集中的な項目学習ができます。

【問題番号指定機能】

苦手だった、この問題とあの問題だけを再度学習したいときは、その問題番号を入力することによって、独自のプリントを作成できます。

■具体的な活用例■

定期試験対策

- ・定期試験 2 週間前からスタートし、基本 1 から標準 3 までを順に学習します。標準問題でまちがえた問題は、W P T で弱点補強します。
- ・数学が得意な人や難関中学に通っているときは、応用にもチャレンジしましょう。

短期定期試験対策

- ・定期試験の予想問題である標準 1 から 3 を学習しましょう。時間があれば、不得意な学習項目を、W P T で弱点補強します。

章単位の復習

- ・章単位で学習が終わったときに復習しておけば、さらに学習の定着がはかれます。まず基本 1 でしっかり確認しましょう。

総復習

- ・学期末や学年末に復習するときは、まず基本 1 をさっと確認していきましょう。その上でさらに標準 1 を学習すると有効です。範囲が広いので問題が多すぎるときは、重要度選択機能を使って問題量を減らしてトライしてみましょう。

要点集

- ・基本的な学習事項の W P T の『説明』をノートにはってまとめれば、要点集ができます。